

図5-1. 身代わり猿とその吊し方



して) 僕これ嫌いなんだよね・・・」というちょっとしたつぶやきを取り上げるなど、人となりまでが伝わるような構成となりました。

④では「**ならまちのおまじない**」として、奈良町に伝わる**身代わり猿**¹と節分の厄除けである“**ひいらぎいわし**”の由来と分布を調査し、町別に掲載し、それぞれの地区をクリックすると写真などを見られるようになっていきます。身代わり猿もひいらぎいわしも奈良の伝統的な厄除けですが、身代わり猿は右の写真のように家族の人数分を吊すものなので、家族の人数を知られたくないなどの理由で最近では取り組む家庭は少なくなっています。

ひいらぎいわしは節分に鬮の頭をヒイラギの枝に刺し玄関先に出しておく、というものですが、これも猫やカラスが来て迷惑をかけるから、などの理由のため節分の一晩だけしかない、という家庭が増えています。奈良の歴史的地区である奈良町近辺ではまだその見ることができますが、その数は減ってきています。

⑤は「**奈良・寺のすゝめ**」として、お参りの仕方やどのような特徴があるかなどの解説と、季節やイベントなどテーマごとにお寺の楽しみ方を紹介しています。民俗学の教員からお寺の選定などの助言を頂き、学生自身も祭りへ参加して情報を収集しました。どれも学生ならではの視点で構築されており、Webとしての質は未熟ですが、面白いコンテンツとなりました。



左：学生作品④：ならまちのおまじない
右：学生作品⑤：奈良・寺のすゝめ

5-4. 取り組みから得られたもの

最後に、このプロジェクトから、何が得られたのか、まとめましょう(大石ほか、2009)。こうした地域活動を推進する大学や高校は全国にあって、数多くの取り組みがなされています。しかし、そのような活動を指導できる専門家は少なく、多くの大学や高校では手探り状態で進めたり、あるいはいっさいを学生や生徒さんに任せきりで行われているものも少なくありません。

そこで、学生や生徒さんの自主性を尊重しながら、しかし、すべてを任せきりではない指導の仕方意識して、以下のようにまとめてみました。

- (1) “**多様性に富んだ視点**”の尊重：このプロジェクトに協力いただいた先生方は複数の学部にも所属し、専門も社会学、生物学、建築・住環境学、都市計画と多岐にわたっていました。それぞれの分野では専門家ですが、異なる方法や視点を持ち合い、おのお

¹ 身代わり猿：「奈良町の家の軒先に赤いぬいぐるみがぶら下がっている。これは、「庚申（こうしん）さん」のお使いの申（サル）をかたどったお守りで、魔除けを意味し、家の中に災難が入ってこないように吊るしている。災いを代わりに受けてくださることから「身代り申」とよばれている。また、背中に願い事を書いてつす「願い申」ともいう」（奈良町資料館HP；
<http://naramachi.co.jp/migawarisaru>)

のの長所を活かすかたちで、地域資源の発掘や情報発信の手法を編み出すことができました。高校でも、様々な分野の先生方がご自分たちの専門知識をだしあい、チームを組んで指導されることが大事かもしれません。

学生たちもまた多様性に富んでいました。とくに、全国各地から進学してきた学生さんは、自分の出身地と奈良の違いに新鮮な驚きをもって大学生活を送っています。逆に、地元出身の学生たちも、長年奈良に住みながら、まだ行ったもみたこともない場所や、知らないことがたくさんあることに気づきました。ようするに、せっかく奈良に来たの（居るの）だから奈良について学びたい、という思いを持っている学生は多くいるのです。もちろん、これは奈良に限ったことではなく、どんな地域にも当てはまることです。

これは“**目線・視線・立ち位置**”の問題でもあり（視点5-1；34頁参照）であり、かつ、他者の視線によって、それまで当たり前に見てきたものに対する見方が変わってくるということでもあります。当然、複数の観察者がそれぞれの印象を提示して、それを統合していく作業が欠かせません。そしてそこに観察者の皆さんの多様性（男女、出身地、それまでのライフ・ヒストリー、そして国籍や言語の違い）を尊重しながら、それらの意見を集約してストーリーを形づくっていくことになります。

(2) **自主性**：次は、学生さんたちの自由な発想や関心＝**自主性**に委ねたことです。教員は各専門で培ってきた視点や方法に基づき、適宜、助言する体制をとりましたので、学生にとっては専門以外の視点や方法を学ぶ機会となるとともに、奈良という地域を眼差す視点を広げる機会にもなったと思います。その結果、学生たちは自ら設定したテーマを、それらの視点や方法を参考にしつつ精力的に情報を探索し、工夫を凝らしながら独自の作品としてまとめあげました。作業の過程や成果をみるにつけ、**学生たちの底力を再認識**するとともに、**きっかけ（機会）を与えれば、学生たちの主体性**がいかに発揮されることを実感しました。

(3) **地元の人たちとの交流**：地元の人たちも気づかれることなく、生活環境の中に**埋もれている地域資源**を、学生の視点から観光資源として発掘・再評価し、それを地域情報として地域の人びとに提案することが、新しい地域のイメージを創造することにもつながっています。そうした相互交流こそがこのプロジェクトの意義であり、実践的教育や活動が活かされると考えています。それは当然、高校生や高校の活動が地域に貢献した、ということになるはずす。

なお、地元の方へのインタビュー、ヒアリングについては『高等学校課題研究ハンドブック』の「Chapter 6 d リサーチ上級編4：フィールドワーク（続）：インタビュー&聞き書き」などを御参考にしてください。

「**地域資源の発掘!**」などと振りかざしてしまうと、なんだか構えてしまったり、今更そんなことと考えたりするかもしれません。そこで触媒となってくれる一つが学生・生徒さんではないでしょうか。彼らがまずそれぞれの地域について知識をつけて、その地域がどうなって欲しいのか、を考えていくことが地域の良さを見直す一歩になると思います。どんな地域でも面白さがあります。地域を知る「きっかけ」をつくり、その情報を共有・

発信する、ということが地域の再評価に繋がります。そのような活動に学生だけでなく、市民の方が参加することで地域力の底上げになり、地域住民の満足度の向上、地域への愛着・誇りへとなるのではないかと考えます。

5-5. 引用文献

関西学院大学総合政策学部編『都市、環境、エコロジー』関西学院大学出版会、2017。
大石理子・清水陽子・中塚朋子・森田尋子「地域資源の発掘とその情報発信に関する実践的教育と活動支援～「古都奈良における生活観光」という視点から～」『奈良女子大学文学部 研究教育年報』6:73-83、2009。

吉兼秀夫「地域を元気にする観光教育のあり方」『観光ホスピタリティ教育』3:70-80、2008、。

吉兼秀夫「観光における「図と地」論」『観光研究』22(1): 4-7、2010。

2018年3月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部

Case 5-1. ケース・スタディ：ご参考に、ある大学でのフィールド調査について、参加した学生の方が書いた記録を紹介しましょう。

■ 第二回フィールドワーク報告（5月16日実施）

今回は先日実施されたフィールドワークを報告します。まず、屋根の形状が解説されているプリントを片手に、30分くらい街中を歩きました。

「あれは切妻屋根だ」「あれは陸屋根だ」としゃべりつつ歩いていると、茅葺屋根の修繕作業をしている家を見ました。茅葺屋根の修繕はおおむね10～30年に一度する程度なので、貴重なものを見ることができました。さて、街歩きも終わり、今回は伝統的街並みに詳しいYさんをお招きして、K市の街並みについてのお話を聞きました。K市の街並みの特徴や、江戸時代からの敷地割が現在も生きていること、中門造りという珍しい建築様式の民家（K市には4軒しか現存していない）のうちの1軒が撤去され、新しいアパートが建設されていること等、スライドを用いて講義していただきました。

講義の後、町人地と武家地を分けている溝を見に行きました。何の変哲もないただの溝ですが、昔の名残がある敷地割を見ることができました。みんなが溝に見入っていました。そのあとはみんなが考えたK市の強み、弱み、強みを生かすための機会、その上で脅威となる存在についてSWOT分析²で話し合いました。みんな自分なりに一生懸命K市について調べていました。

その中で一番盛り上がったのは、かつてK市の領域を治めていた藩主O氏をもじった「Oだんご（お団子）」でした。商店街の店がそれぞれ自分の味付けをして団子を作り、協力して売り出し、商店街を活性化させようという、学生ならではのアイデアも飛び出しました。最後は、株式会社まちづくりKのA社長とT市議会議長のTさんと晩ご飯を食べながらK市の現状、そしてこれからのことについて話し合い、この日のフィールドワークが無事終わりました。

² ビジネスなどにおいてプロジェクトを進める際に、会社や組織、個人をとりまく内外の環境について、強み（Strengths）、弱み（Weaknesses）、機会（Opportunities）、脅威（Threats）という4つのカテゴリーごとに要因分析、もっとも合理的な経営戦略をさぐる方法です。それを“まちおこし”に適用するわけですが、皆さんも試してください。